

第1回パラフットボールボランティア研修 参加人数12人

【アイスブレイク】

○資料読み合わせ

- ・内容を読む！

○やってみよう！

- ・2グループに分かれて、誕生日順に並ぼう！
- ・マスクをしているので、話をしない。1グループは、手を使って、1m離れて並ぼう！指を使ってコミュニケーションで成功。
- ・次のグループは足を使ってやってみよう！
『足で』と難易度をあげる。自分たちで足踏みをして音で知らせている。
「ここに」、「どうぞ」など、ジェスチャーで知らせている。
- ・人数が少なかったため、並んだ後に事項紹介をした。

※振り返り

- ・障がい者のスポーツ体験について、積極的に取り組んでほしい。集中してほしい。そのためアイスブレイクで温かい雰囲気と皆で真剣に取り組む雰囲気を作りたい。
- ・体験会等は、コミュニケーションの大切さにも気付けるのでその前段階とした。
- ・体験会は、安全に取り組むことが前提である。互いに声を出すなど仲間を支える、積極的に交じり合える雰囲気を作りたい。

【ソーシャルフットボール】

- ・講演者の紹介 日本ソーシャルフットボール協会 静岡県地域推進委員 大塚 昭宏
- ・7つの障がい者サッカーとソーシャルフットボールの歴史。

イタリアの calosociate に由来。(英訳 socialfootball)

(年齢・貧困・家庭環境・生涯・あらゆる違いを超えて社会連帯を目指したフットボール文化)

- ・2019年3月全国に137チーム、2021年地区選抜大会、全国大会が開催される。2016年国際大会第1回大阪で開催 日本優勝。
- ・ルール、フットサルのルール、特別なルールとして女性が入ると6名でできる。
- ・精神障害者の説明
- ・精神障害者にとってのフットサルの意義
- ・精神障害者の特性とリハビリテーション
- ・県内のチーム、活動、大会の様子
競技性の高いグループと生涯学習のグループとに分けて
- ・参加メンバーの様子
- ・スタッフと選手とグラウンドの調整

※選手の様子やスタッフの支援、配慮、ボランティアの役割等今後に。

【感染症】東京都福祉保健局『感染所予防』

- ・感染症とは、仕組みと感染経路
- ・スタンダードプリコーション（標準予防策）
- ・おむつ交換
- ・ゾーニング
- ・正しい手洗い方法（感染拡大はウイルス等に触れた人の手を介して）
- ・咳エチケット
- ・日常の管理

・正しい嘔吐物の処理

※情報交換

アンプティ：7月から練習、スタッフ、ボランティアと選手が接触にしないように、
熱等の把握

ソーシャル：8月くらいから練習開始

ブラインド：熱、体調の把握、消毒、練習をしばらく非接触型にする。

知的：移動への注意、ミーティングへの注意

電動：手洗い、換気への配慮

全体として、参加者の把握、行動履歴が把握できるようにする。

非接触型の体温計を全体で購入依頼する。

まとめ

・静岡障がい者サッカーフェスティバルで面識はあるが、それぞれのサッカーについて知らない。この学習会をとおして学びたい。

・一つのサッカーだけでなく、機会があれば他のサッカーにも参加したい。

・ボランティアは、支えるではなく支えあうという考え方で、(学ぶこともたくさんある。)

・体験等もやっていきたい。

・県内の色々な地域でやりたい。

・現状、グループワークができなかったが、日常を取り戻したら、是非やりたい。